

の痛み かもしれません

— 圧迫骨折の治療 —

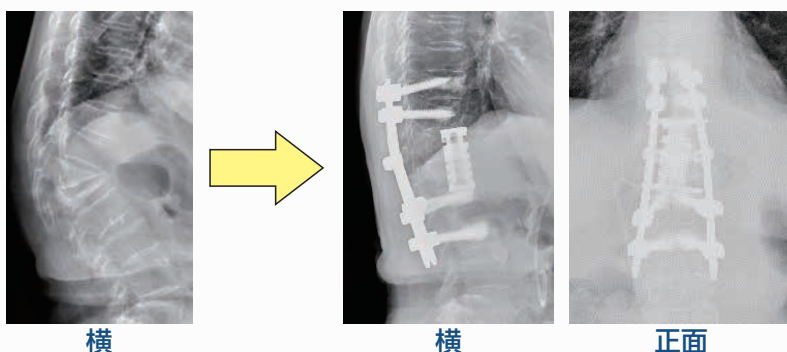
痛み止めを内服し、骨粗しょう症の治療薬を使いながら、コルセットを装着して安静にする、という保存的治療をまずは行います。しばらくこのような治療をしても痛みが残ってしまったり、骨の変形が進行してしまったりするような場合は、手術が必要となることがあります。



津島市民病院
脳神経外科副部長
あおやままさひろ
青山正寛

— 圧迫骨折の手術 —

あまりにも変形が進んでしまった場合は、金属のネジや棒でせぼねを固定するというような、非常に大掛かりな手術が必要となってしまいます。



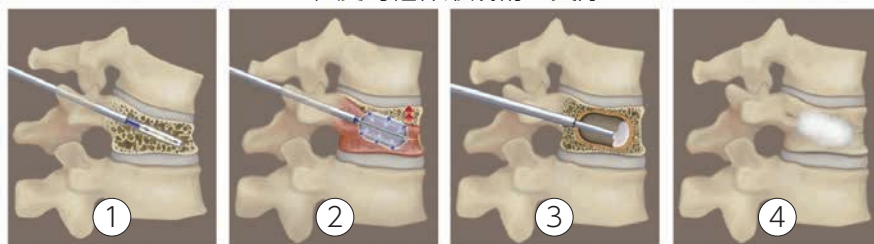
<レントゲン写真>

◀大掛かりな手術の一例
(胸腰椎前後方固定術)

一方、変形が軽度でとどまっている場合には、経皮的椎体形成術という20分程度で終了する非常に負担が少ない手術で治療可能です。変形した骨にセメントを充填することにより、痛みをとり、それ以上の椎体の変形を予防することが可能です。変形が進む前に、このような負担の少ない手術で治療することが非常に大切です。

▼ 経皮的椎体形成術の実際

背中の中の左右の5mm程度の小さな傷から、骨折した椎体に針を入れます(①)。その針から小さな風船のついた器具を挿入し、その風船を膨らませ、つぶれた骨を持ち上げてできるだけつぶれる前の形に戻します(②)。最後に、風船で膨らませた空間を満たすように骨セメントを充填します(③、④)。



圧迫骨折は放置すると変形が悪化する可能性がある病気です。負担の少ない治療で治すためには、より早期に治療を行う必要があります。レントゲンやMRIといった画像検査ですぐに診断可能ですので、腰や背中での痛みでお困りの方は、早めにご相談ください。さらに詳しい情報は津島市民病院のホームページにも記載しています。ご興味がある方は是非一度、ご覧ください。

